



第77回国民体育大会冬季大会スキー競技会 美の国あきた鹿角国体2022



TEAM FUKUOKA NEWS 2022



福岡県選手団サポートニュース R4.2.19 (土) Vol.1

冬季大会 スキー競技会 いよいよ開幕！！



【松田兄弟】

左から：篤征選手、
恕子選手、倫明選手

コロナ禍で昨年の大会が中止となり2年ぶりの開催となった国民体育大会冬季大会スキー競技会が、秋田県鹿角市の花輪スキー場で開幕した。今大会には、全国から1677人が参加し、2月17日～20日までの4日間熱い戦いが繰り広げられる。

気温マイナス4℃、時折雪がちらつく中、福岡県選手団の一番手として滑走を行ったジャイアントスラローム成年男子Bの松田篤征選手（住友重機械工業（株））、松田倫明選手（福岡県立大牟田北高校（教））の兄弟。数名の選手がコースアウトし競技が中断されたが2名の選手は素晴らしい滑走をしてくれた。兄の倫明選手は「氷のように斜面が固くコントロールが難しかったが、滑りきることができて満足している」また、弟の篤征選手は、1年前に膝を痛めた影響により、十分な実戦を積めないまま本大会に出場。「膝の不安はなかったが、練習不足で思うようには滑れなかった」と悔しさを滲ませた。上位入賞はできなかったが、国体が開催されたことに喜びを感じている様子だった。最終日（20日）妹の恕子選手（（株）村田製作所）も滑走予定である！！



【松田倫明選手】



【左から：石井選手
高名選手、長野選手】

難コースに挑戦する 若き福岡県選手団！

ジャイアントスラローム成年女子Aは3名が出場した。若干気温が上がったこともあり雪が解け、スタート地点は滑りやすい状態になっていた。長野ほまれ選手（中村学園大学）、高名まや選手（筑紫女学園大学）は、「もっと攻めのスキーができたのではないかと共に悔しさを口にした。石井陽菜選手（九州大学）は競技歴1年での本大会出場。「次のインカレに向けてゴールしたかったが、コースが難しく思うように滑れなかった」とコメントを残した。この経験を糧に今後の成長が楽しみである。



【左から：小松選手、
嶋田選手、窪田選手】



【窪田選手】

雪にも負けず 3選手見事に完走！

クロスカントリー成年男子Aに九州大学の小松耕大選手、嶋田悠二選手、窪田安晃選手の3名が出場。競技開始時点は晴天であったが、レース途中から雪が激しくなり厳しいレース展開となった。3選手とも大学の試験が直前まで行われ、準備不足の状態での鹿角入り。レース後「満足いく練習ができなかったがしっかり滑りきることができた。次のインカレに向けて頑張ります」と次の目標に向け、前向きなコメントが印象的だった。



【忍田選手】



【左から：菊波選手、
忍田選手、石井選手】

難コースに果敢に挑んだ 福岡選手団！

ジャイアントスラローム成年男子Aには菊波智（久留米大学）、忍田渉太郎（九州大学）、石井亮太（九州大学）の3名が出場。忍田選手は「何とか完走はできた」と安堵した。菊波選手、石井選手は「前半は上手く滑れたが、完走できなくて悔しい」とコメント。104名中21名が完走できない難コースであったが、2月下旬に同会場で行われるインカレでの活躍に期待したい。